

学校便り

学校教育目標

知徳体の調和のとれた品性ある子の育成

—チャレンジいっぱい 笑顔いっぱいの学校—

すすんで考えを伝え合う子

思いやりを形で表す子

粘り強く取り組む子

後期学校評価の結果のお知らせ

春寒の候、保護者の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。また、平素より本校の教育活動に格別のご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、12月に実施しました「保護者アンケート」「教員アンケート」「児童アンケート」について報告させていただきます。

1 保護者アンケート

	お子さんの様子	前期 A+B (%)	前期 A (%)	後期 A+B (%)	後期 A (%)
1	お子さんは、学校は楽しいと思っている。	96	32	96	36
2	学校は、お子さんのことについて相談に応じてくれる。	99	26	96	33
3	学校は子どもの努力を認めたり励ましたりして、温かく接している。	97	29	97	36
4	お子さんは、授業はわかりやすいと思っている。	95	19	94	20
5	お子さんは、10分×学年の家庭学習をしている。	72	17	71	22
6	お子さんは自分からあいさつをしている。	81	23	87	27
7	お子さんは、いじめられたり無視されたりすることなく安心して過ごしている。	92	37	92	34
8	お子さんは進んで体をよく動かしている。	91	39	88	39
9	お子さんの話や学校からのおたより等で、学校の様子がわかる。	94	22	93	18

2 教員アンケート

	評価観点	前期 A+B (%)	前期 A (%)	後期 A+B (%)	後期 A (%)
1	児童は学校で楽しく過ごしている。	100	33	94	25
2	児童の様子を把握し、家庭への連絡や相談等、適切な対応を心がけている。	100	38	100	47
3	日々の教育活動で、子どもの努力を認めたり励ましたりして、温かく接しようと努力している。	100	50	94	67
4	仕事に優先順位をつけ、効率よい働き方になるよう工夫している。	100	33	94	18
5	ねらい（育みたい資質・能力）を明確にした授業を行っている。	100	42	94	19
6	児童の伝え合いを大事にした授業づくりを行っている。	100	42	100	50
7	児童は、話をよく聴いている。	100	10	81	6
8	家庭学習の習慣化を進めるため、宿題の内容を指導・工夫している。	100	54	100	46
9	あいさつ等、児童の自発的な活動を促すような場の設定や指導を工夫している。	100	29	100	47
10	児童は、自分から挨拶をしている。	73	13	69	13
11	人権を尊重しながら児童の指導にあたっている。	100	64	93	73
12	児童が相手を大切にするように働きかけをしている。	100	64	93	73
13	児童は先生や友達の話最後まで聞いている。	93	7	80	7
14	子どもたちは、いじめられたり無視されたりすることなく安心して過ごせるよう指導している。	100	36	93	53

15	体育の時間やその他の時間で、目標を持って進んで運動に取り組めるよう働きかけている。	100	58	100	58
16	児童主体の特別活動になるよう、話し合い活動を充実させるよう指導している。	100	8	100	47
17	係や委員会の活動に責任を持って取り組めるよう働きかけている。	100	36	100	33
18	各種おたより等で児童や学校の様子を随時お知らせしている。	93	43	88	38

3 児童アンケート

	自分の様子	前期 A+B (%)	前期 A (%)	後期 A+B (%)	後期 A (%)
1	学校は、楽しい。	97	66	96	52
2	困ったことがあったら先生に相談できる。	81	32	77	27
3	先生は、がんばるとほめてくれたり、はげましてくれたりする。	94	56	93	49
4	授業は、わかりやすい。	96	56	94	45
5	自分の考えを相手に伝わるように書いたり話したりしている。	92	41	84	34
6	友だちの話をよく聴いている。	97	55	96	53
7	10分×学年の家庭学習をしている。	86	41	84	40
8	自分から元気にあいさつしている。	90	58	91	51
9	自分にはいいところがあると感じている。	86	36	82	36
10	友だちを大切にしている。	100	79	98	78
11	いじめられたり無視されたりすることなく安心して過ごしている。	88	65	90	67
12	目標を持って進んで運動をしている。	93	64	91	52
13	学校や学級をよくするために積極的に話し合に参加している。	93	38	88	33
14	係や委員会の活動を忘れずしっかり取り組んでいる。	98	70	96	61
15	お家の人と学校や社会の出来事について話をしている。	89	64	87	50

4 分析と改善策

(1) あいさつ（思いやりを形で表す子）

児童のあいさつに対する肯定的評価は、前期と変わらず90%と高い評価でした。今後も生活目標の期間だけでなく、「自分から言う」「相手を見て言う」「みんなに言う」「相手に先に言われたらすぐ返す」の4つのポイントを児童が主体的に取り組めるようにしていきます。また、この4つのポイントを定期的に意識できるような企画を行い、あいさつの定着や質の向上を図っていきます。

ぜひ保護者の皆様からも心の通い合う挨拶をお願い致します。



(2) 思いやり（思いやりを形に表す子）

「自分にはいいところがある」の肯定的評価は82%であり、前期と比べ少し低くなっています。今年度の取組として、人間関係づくり（ワクワクタイム）を月に1回行いました。前期と比べて肯定的評価の数値は低くなりましたが、お互いを認め合う機会を設け、認めてもらえる場が増えたことが、児童の自己肯定感を高めることにつながっていますので、続けていきたいと考えています。

今後も学校教育活動のあらゆる場で、教師が児童の頑張りを褒め、認め、励まし、その姿を児童が見て、児童同士が褒め、認め合いのよさを実感し、互いを思いやる心を引き続き育成していきます。

(3) 伝え合う（すすんで考えを伝え合う子）

前期に引き続き、教師の「児童の伝え合いを大事にした授業づくりを行っている」100%が、児童96%、保護者95%の肯定的評価につながっています。しかし、「わかりやすい」と答えた児童が96%（Aのみ56%）いる一方、学習に困っている児童が4%いることにも目を向けていかなければなりません。

教師はこれまでのねらいを明確にした授業づくりを継続し、学習面で困っている児童が4%いることも意識して、一人一人の児童に対応した授業づくりへの努力を続けるとともに、伝え合って深まる授業をさらに目指していきます。

(4) 家庭学習（すすんで考えを伝え合う子）

教師は学年に応じた量や内容の家庭学習を提示していますが、取組の様子には児童によって個人差があります。

学期に1回設けている家庭学習強化週間を大切に、児童自身には、自分の取組を振り返りよりよくする機会、保護者の皆様には、お子様の家庭学習の様子を確認したり、応援していただいたりする機会として、今後も取り組んでいきます。



(5) 笑顔いっぱいの特別活動（粘り強く取り組む子）

児童の「目標を持って進んで運動している。」は肯定的評価 91%であるが、前期に比べ A 評価児童が 12%低下しています。課題が提示されていても、意識して取り組んでいないのではないかと考えられます。

前期に引き続き、教師の働きかけは肯定的評価 100%であり、目標を持って進んで運動に取り組めるよう働きかけています。児童の「学校や学級をよくするために積極的に話し合いに参加している。」は前期に比べ肯定的評価が 5%低下しています。教師の A 評価が 39%向上しています。話し合い活動の土台が定着してきていることが考えられます。

児童の「係や委員会の活動を忘れずしっかり取り組んでいる。」は A 評価児童が 9%低下しているが、前期より自分の仕事の取り組み方について真面目に考えている様子であると考えられます。前期同様に、児童が当たり前のように頑張っていることをそのままにせず、全職員で児童を認め、励ましていきます。

また、児童一人一人の活躍の場を意図的に設定し、責任をもって取り組めるようにしていきます

5 学校運営協議会より（令和8年1月27日（火））

あいさつをする子は増えてきていると思います。朝の挨拶をすると大きな声で手を上げて挨拶する子もいる。また、小学校校内でもあった時には、「こんにちは」と言う子が増えたと思います。

コミュニティーセンターを使用する団体の子（石川小の児童）は最初は挨拶をしなかったが、少しずつ改善して、今では積極的に挨拶をしてくれています。

挨拶に対して、高学年になるほど数字が下がります。自分の事に対して低くても相手を思う気持ちを感じ取る。

評価の取組を継続していることで、着実に成果が出ている一方で、自己評価する教師側の評価が厳しくなっているのは、その指標、事由についてより深く考えられている成果の1つだと考えられるので、数字では低下しているものの、より取組が定着しています。

児童、保護者、教師がそれぞれ学校評価をしていく中で、取組を意識しながら継続しているのは、正直、教師のみではないかと思うので、児童はちょっとした状況の変化などで一人一人振れ幅のある評価になるので難しいですが、保護者も教師と同じようにといかずとも、もう少し学校の取組に関して理解をもって子育てしていくことがより本質的な成果につながっていくと思います。